

令和 6 年度

高 浜 町 教 育 委 員 会
自 己 点 検 評 価 報 告 書

高浜町教育委員会

—— 目 次 ——

I	はじめに	．．．．． 1
II	「点検・評価について（方法）」	．．．．． 2
	①対象期間	
	②点検・評価の構成	
	③点検・評価の方法	
III	自己点検・評価シート	．．．．． 3
IV	自己点検・評価シートに対する外部の知見	．．．．． 7
V	全体総括	．．．．． 9

I はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により、教育委員会の権限に関する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、公表しなければならないこととされています。

教育委員会が地域の教育課題に応じた基本的な教育の方針・計画を策定し、これに即した事業を実施し、その後自ら評価を行い、結果を公表することにより着実に計画の実行を図ることができます。

高浜町教育委員会では、令和6年度教育委員会の事務の管理及び執行状況について内容の評価・点検を行い、教育に関する学識経験を有する方々の意見を付して報告書としてまとめました。

自己点検・評価を行うことで、今まで見えていなかった課題や不足していた部分が浮き彫りとなり、また教育行政に携わる一人ひとりが新たな視点を加えた中で事業に取り組むことにより、時代の変化に対応した教育行政の推進に資するものと考えております。

今回、自己点検・評価の取り組み内容を公表することで、教育行政のより一層の推進を図りたいと考えておりますので、住民の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

Ⅱ 点検・評価について（方法）

① 対象期間

令和6年度（令和6年4月～令和7年3月）

② 点検・評価の構成

評価項目について

令和6年度において実施した施策を、教育委員会の基本方針に基づき、

1. 社会の中で信頼と尊敬を得る人間性を育てる学校教育
2. 人権意識を高め、明るい町づくりに貢献する豊かな心を育てる人権教育
3. 新しい時代を生きぬき、創造する知性と教養を育てる生涯学習の推進
4. 青少年の健全育成とスポーツの振興
5. 郷土愛に満ちた文化創造の心を育てる文化振興

以上の5区分に分類し、それぞれに定めた重点方策により点検・評価を行いました。

③ 点検・評価の方法

点検・評価にあたっては、Ⅲ 自己点検・評価シートにより事業実施状況を把握するとともに、課題や方向性について評価を行いました。

各事業に対する取り組み度・実現度の評価方法は、下記の4段階評価としました。

- A・・・十分な成果がみられる
- B・・・おおむね成果がみられる
- C・・・成果もみられるが、今後検討を要し、さらなる取り組みが必要である
- D・・・成果がみられない

高浜町教育委員会の自己点検・評価シート（令和６年度）

=基本方針=

- 社会の中で信頼と尊敬を得る人間性を育てる学校教育
- 人権意識を高め、明るいまちづくりに貢献する豊かなこころを育てる人権教育
- 新しい時代を生きぬき、創造する知性と教養を育てる生涯学習の推進
- 青少年の健全育成とスポーツの振興
- 郷土愛に満ちた文化創造の心を育てる文化振興

A＝十分な成果がみられる
B＝おおむね成果がみられる
C＝成果もみられるが、今後検討を要し、さらなる取り組みが必要である
D＝成果がみられない

1. 社会の中で信頼と尊敬を得る人間性を育てる学校教育

N0	重点方策	自己評価	区分	説明
1	確かな学力の定着	B	実績	①小中学校に、町費単独採用講師を配置（４名）した。 ②小学校に、学習支援員を配置（６名）した。 ③タブレット端末や学習用アプリ等を活用した授業を実施した。
			成果	①②町費単独採用講師や学習支援員を配置することにより、きめ細かな指導を実施することができた。一方で、教員免許を有する町単講師については、恒常的に人材不足が続いている。 ③様々なICT機器を活用し、児童生徒が適切に学べる体制を整えることができているが、機器を活用した指導力の向上が課題である。
2	豊かな心の育成	B	実績	①小中学校に、教育相談員を配置（５名）した。 ②小中学校に、スクールカウンセラーを配置（３名）した。 ③県と連携し、高浜中学校に校内サポートルーム支援員を配置（１名）した。 ④高浜公民館内（はまなす教室）に、教育相談員を配置（２名）した。 ⑤小中学校の図書館運営を支援する学校図書館支援員を配置（１名）した。 ⑥キャリア教育の一環として、金融教育を実施した。 ⑦要保護児童生徒の支援にあたり、児童相談所、こども未来課等とのネットワーク強化を図った。
			成果	①②③④各小中学校に教育相談員やスクールカウンセラー等を配置し、児童生徒や保護者からの教育相談体制を整備している。一方で、個別の家庭事情に踏み込んだ相談や支援については有資格者がおらず、サポートに限界がある。【相談件数】延べ７，４８６件 ⑤学校図書館支援員が、学校図書館の環境整備、図書資料を活用した授業の補助、学校と町図書館間の相互貸出を行った。 【相互貸出冊数】延べ８０８冊 ⑥近隣の金融機関の方を外部講師として招聘（２名）し、お金と金融の働きについての学習を行った。 【高浜中学校】 ９２名（３年） ⑦関係機関と連絡会議やケース会議などにより、要保護児童の早期発見やきめ細かな対応が可能となった。
3	健やかな身体の育成	B	実績	①地域スポーツ指導者（１４名）を配置した。 ②各学校が策定する「食育に関する指導計画」に基づき、栄養教諭や給食センター職員による栄養指導（３回）や食育授業（５０回）を実施した。 ③地場産食材を活用した給食や食育授業の実施のために、生産者と綿密に調整を図った。 ④学校給食調理施設（学校給食センター）の施設や設備の老朽化への改善対応と将来にわたって安全で衛生的な給食を安定的に継続提供するため、専門的な知識や技術のノウハウを持つ民間事業者への委託を実施した。
			成果	①地域スポーツ指導者を中学校に配置することにより専門的な技術指導ができているが、人員が不足しており教員の負担軽減までには至っていない。 【出務日数】地域スポーツ指導者 延べ１８４日 ②栄養指導や食育授業により、児童生徒の「食」に対する理解を深める機会を提供することができた。 ③生産者との連携によって、地域産の食材の安定供給に寄与した。 ④令和６年８月より給食調理業務の民間委託を開始し、児童生徒の健やかな成長のため、欠食することなく安全で安心した給食を提供することができた。
4	教員の資質能力の向上	A	実績	①教員（１名）を、福井大学の教職大学院（学校改革マネジメントコース）へ派遣した。 ②小中学校に、情報教育サポーターを派遣した。
			成果	①教職大学院への教員派遣で得たスキルを、他の教職員に伝達する取り組みを行った。【派遣日数】延べ ３５日 ②情報教育サポーターを派遣し、機器やソフトのトラブルの対応や教職員への操作方法の説明を行い、ICT機器を活用した授業の推進に大きく寄与した。 【派遣日数】延べ１２０日

N0	重点方策	自己評価	区分	説明
5	幼児教育の充実	B	実績	①保幼小連携研修会を開催（2回）した。 ②各保育所へ外国語指導助手を派遣した。
			成果	①保育所現場と学校現場の情報交換により共通理解を図ったが、さらに深化させる必要がある。 ②幼児期からネイティブな英語に触れる機会を提供できた。
6	外国語活動の充実と国際理解教育	A	実績	①小中学校へ外国語指導助手（3名）を配置した。 ②生徒の保護者に代わって、英語検定料を負担した。
			成果	①外国語指導助手の指導により、児童生徒がネイティブな英語に触れることができた。 ②英語検定料の町費負担により、全ての生徒が受験できる環境を整えることができた。
7	特別支援教育の充実	A	実績	①特別支援学級に在籍する児童生徒（12名）の保護者に対し、特別支援教育就学奨励費を給付した。（259,266円） ②小学校の特別支援学級に在籍する児童が中学校へ進学する際の移行支援会議を開催（1回）した。 ③学校調査員を対象に発達検査(簡易検査)講習会（1回）を開催した。
			成果	①奨励費を給付することにより、特別支援教育に要する経費の保護者の負担軽減に繋がった。 ②児童生徒の個々に応じた支援方法について、保護者や関係者との合意形成を図った。 ③発達検査講習会を開催することにより、検査結果に正確を期すことができた。
8	教育環境の改善	B	実績	①和田小学校長寿命化改修工事の設計業務、および小中学校体育館等空調設備設置工事設計業務を実施した。 ②青郷小学校グラウンド改修工事を実施した。 ③小学校、中学校、高校への入学時の支度金に対する保護者支援のため、入学・新生活スタート応援給付金を支給した。 【給付件数】252件 【給付金額】8,770,000円 ④中学校や高校への通学費に対する補助を実施し支給した。16,496,179円 【補助率】中学生通学定期代 10割（路線バスを含む） 高校生通学定期代 8割（スクールバスを含む） ひとり親定期代 10割 ⑤児童生徒の教材費無償化補助金を実施した。（6校+区域外就学児童生徒）13,406,197円 ⑥給食費の無償化を実施した。38,215,122円（賄材料費） ⑦町内から遠方の高校への通学のために入寮、下宿している生徒の入寮費に対する保護者支援のため、入寮費助成補助金を支給した。 【補助率】入寮費上限の8割（上限：5,000円） 【補助件数】9件 【補助金額】384,000円
			成果	①和田小学校長寿命化改修工事・小中学校体育館等空調設備設置工事に係る計画を策定することができたが、高浜中学校大規模改修工事については他事業との調整により着手はできなかった。 ②青郷小学校グラウンド改修工事を実施し、学校施設の改善および生徒が快適に学校生活を送ることができる環境を整えることができた。 ③④⑤⑥⑦教育に係る保護者の経済的負担軽減に伴う家庭環境の安定化が、児童生徒の精神的な安定に繋がった。

2.人権意識を高め、明るい町づくりに貢献する豊かな心を育てる人権教育

N0	重点方策	自己評価	区分	説明
1	人権教育の推進	B	実績	①児童生徒が人権について学ぶ地区学習会（ヒューマンサークル・ヒューマンサークルジュニア）を開催した（31回） ②高浜町人権教育研究会の研究活動に対し、補助金を交付した。 ③福井市の「コム・サポートプロジェクト」を訪問し、車椅子で生活をしている方（高浜町出身）から、生活をする上で不便な点や日常生活の中で工夫されている事を聞き、誰もが生活しやすい社会について考える機会が得られた。
			成果	①学習や研究活動を通じて、人権への理解を深める機会を提供できた。 ②継続的な研修の実施により、教職員の人権意識の高揚をさらに高める必要がある。 ③障害を持つ方から直接お話を伺うことにより、日常の中での人権について学び理解を深める機会を提供できた。

3.新しい時代を生きぬき、創造する知性と教養を育てる生涯学習の推進

N0	重点方策	自己評価	区分	説明
1	公民館事業の推進	B	実績	①4公民館において、一般教養、高齢者健康促進、子ども(親子)体験活動などの公民館講座(136講座)を実施した。 ②包括連携協力に関する協定を締結している舞鶴高専と共催で、高専の学生等による小学生対象の出前講座(5講座)を実施した。 ③郷土資料館と共催で各公民館ごとに、高浜の禅僧「釈宗演」に関する講演会及び山城に関する講演会と現地見学会(11講座)を実施した。
			成果	①公民館講座に延べ4,322名の参加があったが、ニーズが多様化しており、町外など幅広い地域から講師を確保する必要がある。 ②公民館出前講座に延べ86名の参加があった。小学生と年齢の近い高専の学生が講師となることで、モノづくり講座やプログラミング教室についてより興味を持って探求学習の促進につなげることができた。 ③郷土資料館との共催講座に延べ275名の参加があった。地元出身の偉大な人物及び自然や歴史を改めて学習することができた。山城講演会と見学会に関しては、県外からも多くの方の参加があった。
2	図書館図書の充実と施設の利便性向上	A	実績	①令和6年度に新たに3,186冊購入し、本館の所蔵図書が115,159冊となった。 ②利用者の利便向上のため、これまで周知が図られてなかったインターネット端末(PC・スマホ等)の図書予約を、来館者に告知・案内した。 ③図書館内のすべての場所でWi-Fiが利用可能となるよう、Wi-Fi増設工事を行った。 ④定期検診の際に、新生児に絵本をプレゼントする「ブックスタート」事業を実施した。 ⑤老朽など廃棄対象となった蔵書等を町民に譲渡する「古本市」を開催した。 ⑥居心地の良い空間づくりのため、図書館中庭をオープンテラスとして利用できるよう整えた。(期間:4月～11月上旬)
			成果	①話題の新刊等を幅広く購入することで多様なニーズに応えることができた。 【貸出冊数】61,758冊 ②来館以外にインターネット端末でも図書の予約ができるようになり、図書館利用の幅が広がり、図書に触れ易い環境が構築できた。 ③図書館のWi-Fi環境拡充により、利用者が館内外(テラス部分含む)全域でネット環境をスムーズに利用することができた。 ④幼少期から本に親しみ、心を育てる情操教育に寄与する取り組みができた。 【配布実績】106冊(新生児1人当たり2冊) ⑤古本を希望者に譲渡することで、収蔵庫の適正管理を図ることができた。 【譲渡実績】1,079冊 ⑥オープンテラスで読書や食事・休憩等に利用していただき、多くの方の幅広いニーズに貢献することができた。【利用者数:248名】
3	国際社会に対応するまちづくりの推進	C	実績	①国際交流に対して意識の高い地域団体が実施する外国語講座や日本語教室の主催に対し、補助金の交付や運営支援を行った。 ②小学5年生から中学3年生までを対象とし、国内に置ける英語に限定した宿泊プログラムであるイングリッシュキャンプの補助制度を継続した。(参加者0名/昨年度0名)
			成果	①国際交流活動を支援することで、町民の国際理解や在住外国人の生活支援に寄与することができた。 ②募集時に参考として近隣開催のプログラムをピックアップし、参加者を募ったが今年度も応募が無かった。今後は児童生徒や保護者のニーズを踏まえながら、事業内容の見直しが必要である。
4	放課後児童クラブの充実	B	実績	①町内全学区内4か所(高浜小・和田小・青郷公民館・内浦公民館)で放課後児童クラブを開設し、延べ10,191名の利用実績があった。 ②支援員を対象に、研修会(4回・年度放課後子どもクラブ資質向上研修、軽度支援児対応や子どもへの声かけの仕方について、個人情報保護及び情報セキュリティに係る職員研修、高浜町職員・特定職業従事者合同人権研修)を実施した。 ③町内全4か所(高浜・和田・青郷・内浦)の放課後児童クラブにおいて業務支援ICT(iPadを使用した児童の入退所管理、保護者からの利用申請受付、職員の出務管理等)を活用した。
			成果	①保護者の就労環境を保障する機能として、定着を図ることができた。 ②支援員の研修機会を確保することにより、保育の質の向上と事故の未然防止が図ることができた。今後は、気がかりな児童への関わり方等、さらなる研修機会が必要となっている。 ③業務支援ICTを活用し支援員の負担軽減と児童の安全管理を図ることができた。

4.青少年の健全育成とスポーツの振興

N0	重点方策	評価	区分	説明
1	青少年の心身の健全育成	A	実績	①スポーツ少年団(団体数 軟式野球3/和田1・高浜1・青郷1、ラグビー1、サッカー1、ミニバスケットボール男子1、同女子1、柔道1、バドミントン1 剣道1、バレーボール1 計11団体、団員数 小学生178/男子116・女子62、中学生6、高校生以上5 団員計183名)の単位団へ補助金交付による活動支援を行った。 ②青少年愛護センター補導員等による見廻り、見守り活動(延べ30日)を実施した。また、補助金による団体への活動支援を継続して行った。
			成果	①スポーツ少年団活動を継続できたことで、子どもたちの意欲的な活動を支援することができた。 ②定期的な巡回活動により、青少年の夜間徘徊や不良行為につながる行動を未然に防ぐことができた。また、青少年育成高浜町民会議主催の「ふれあい広場」を開催し、地域交流の場を提供することができた。

N0	重点方策	自己評価	区分	説明
2	競技スポーツ、生涯スポーツの普及	A	実績	①スポーツ協会委託事業として、7種目（女子ソフトボール、軟式野球、壮年ソフトボール、ゴルフ、グラウンドゴルフ、ゲートボール、女子バレーボール）の大会を開催した。 ②幅広い層が参加しやすいニュースポーツ教室（ビーチボール、ボッチャ、モルック）を5回開催した。また、ビーチボール交流大会を開催した。 ③ビーチスポーツ教室（シーカヤック、スタンドアップパドルボード他）や水辺の安全教室を開催し、海を活用した生涯スポーツの普及活動を行った。 ④若狭高浜はまなすマラソン、青葉山トレイルマラソン、ビーチラグビー、ジュニアトライアスロン等の各種大会に対し補助事業を実施した。 ⑤新たにSNSを活用したスポーツ情報の発信を行った。
			成果	①スポーツ協会と連携しながらコロナ前と同様の7種目を開催し、町民の健康増進と地域の交流づくりに寄与することができた。 【スポーツ大会参加者数】延べ728名 ②運動習慣の定着や健康増進意識の向上につなげることができた。 【ニュースポーツ教室参加者数】延べ132名 【ビーチボール交流大会】6チーム ③町内団体との協働によりビーチスポーツ教室を2回、水辺の安全教室を全小学校で開催し、高浜の自然環境を活かした生涯スポーツを推進することができた。 【ビーチスポーツ教室参加者数】延べ66名 【水辺の安全教室参加者数】延べ89名 ④町内外から多くの参加があり、競技スポーツの推進と高浜町の魅力発信を行うことができた。 【若狭高浜はまなすマラソン参加者数】602名 【青葉山トレイルマラソン参加者数】75名 【ビーチラグビー中部大会参加者数】70チーム他 ⑤SNSを活用し、特に若い世代や町外者にタイムリーなスポーツ情報を届けることができた。
3	体育施設の整備	B	実績	①青葉総合グラウンドフェンス改修工事を実施した。 ②社会教育施設、体育施設の各種点検および必要な修繕を実施した。
			成果	①青葉総合グラウンド使用時の安全性と利便性を向上することができた。 ②各施設の点検結果に基づき環境整備や修繕工事等を行ったが、和田テニスコート・グラウンドについては不十分であった。

5. 郷土愛に満ちた文化創造の心を育てる文化振興

N0	重点方策	自己評価	区分	説明
1	郷土愛を育む教育	A	実績	①小中学校で特色ある学校づくり活動（ふるさと学習）を行った。 ・「地域の教育資源を活用したふるさと教育事業（高浜小学校）」（地域団体と連携したSDGsをテーマにした学習、昔遊びなど） ・「特色ある学校づくり（和田小学校）」（農業体験、命の学習、地域貢献活動など） ・「特色ある学校づくり（青郷小学校）」（青郷地域の自然環境・歴史学習、地域の方々との交流活動など） ・「ふるさと大好き 未来を拓くいきいき内浦っ子（内浦小中学校）」（青葉山の自然学習、薬草栽培体験など） ・「未来に希望を持ち、人間性豊かな生徒の育成（高浜中学校）」（地域人材と連携した探求学習（高浜未来創造プラン）、キャリア教育など） ②企画展（テーマ「高浜祇園会とその歴史」「若狭の山城と碓導山城」）を開催（2回）、ミニ企画展（テーマ「高浜の民具」「和菓子の木型」）を開催（2回）した。 郷土資料館・各公民館共催展「高浜の禅僧 釈宗演」（4地区）、「高浜の山城」（4地区） ③郷土資料館歴史講座（テーマ「高浜の高僧 釈宗演」「和田の戦国～白石山城を中心に～」 「高浜の戦国～碓導山城を中心に～」 「青郷の戦国～大谷山城を中心に～」 「内浦の戦国～難波江城を中心に～」）を開催（5回）した。 ④シンポジウムの開催（テーマ「墨蹟にみる釈宗演」「高浜の山城と逸見昌経」「高浜七年祭の継承を考える」）を開催（3回）した。 ⑤展示関連行事「白石山城現地見学会」「碓導山城1周ウォーキング」「大谷山城見学会」「難波江城現地見学会」「糸車で糸を紡ごう」「木型で石けんづくり」「難波江城現地見学会」
			成果	①児童生徒が地域を再認識する機会を提供することができた。 ②文化財を常設展示や企画展を開催することで、町民が貴重な文化財に直接触れる機会を提供することができた。 【企画展入館者数】312名 【ミニ企画展入館者数】167名 【郷土資料館・各公民館共催展観覧者数】427名 ③5回の歴史講座を実施し、歴史に興味を持ってもらう機会を設けると同時に郷土資料館活動の活性化を促すことができた。 【歴史講座入館者数】151名 ④様々なテーマから郷土の歴史について学術的な側面から紹介し、新たな知見を提示することができた。【参加者数】158名 ⑤展示に合わせたフィールドワーク、体験イベントを行い、より実践的な歴史体験の場を提供することができた。【参加者数】92名
2	町民の文化意識の高揚	B	実績	①文化会館施設の利用件数・利用者数は、626件、21,859人であった。 ②文化会館事業として、文化芸術や文化施設等に興味・関心を持っていただけるよう、4件の町独自事業を実施した。 ③その他、町民の文化芸術意識を高め、情操を深めることを目的とした文芸協会への委託事業（音楽鑑賞事業2回、芸術鑑賞事業1回）と、文化協会等への補助事業（高浜町文化祭1回と和田・青郷地区文化祭各1回）を実施した。
			成果	①町民の文化意識、情操を深める一助とすることができた。 ②地域の総合型スポーツクラブと連携し、事業（eスポーツ大会）を開催することで、より多方向から文化の浸透を図ることができ、参加者数も昨年より増加したが、その一方で人口減少も進み、施設の老朽化等も進行する中で、今後の施設のあり方を含め、検討していく必要がある。 ③テレビ等で活躍する著名なゲストを招いた催しなどを開催し、大いに町民の文化意識の高揚を図ることが出来た。
3	文化財の保存・継承・活用	B	実績	①文化財管理者へ補助金（中山寺本堂防災設備保守点検業務補助金ほか8件）を交付した。 ②前年度に引き続き「高浜町史資料編 埋蔵文化財」の編さん作業を進めた。
			成果	①文化財の保護継承活動を支援することができた。 【補助金交付件数・金額】 9件 47,425,000円 ②令和6年度中の刊行も叶わなかったため、令和7年度の刊行を目指す。

Ⅳ 自己点検・評価シートに対する外部の知見（要約）

1. 社会の中で信頼と尊敬を得る人間性を育てる学校教育

ア. 自己点検評価が適当と思われるかどうか？ （適3名、否0名）

イ. 自由コメント

- ・学校や公民館に配置している相談員の相談件数について、推移や相談内容の変化なども評価の中に盛り込めるとよい。
- ・学校図書館の貸出冊数がどのように変化したのかわかるとよいのではないかな。
- ・講師や支援員、外国語指導助手などきめ細かい配置ができていると感じる。
- ・以前に比べると、手厚く教育されていることが伝わってくる。過去が悪かったわけではないが、これくらいしなければいけない時代になったこと、そして先生方のご努力とご苦労に頭が下がる思いです。

2. 人権意識を高め、明るい町づくりに貢献する豊かな心を育てる人権教育

ア. 自己点検評価が適当と思われるかどうか？ （適3名、否0名）

イ. 自由コメント

- ・人権学習会において、高浜町出身の車イスで生活されている方から直接お話を聞いたことは、子ども達にとって貴重な経験になったと思います。他人事ではなく、身近な問題となったことでしょう。

3. 新しい時代を生きぬき、創造する知性と教養を育てる生涯学習の推進

ア. 自己点検評価が適当と思われるかどうか？ （適3名、否0名）

イ. 自由コメント

- ・図書館のサービス向上について、町民のニーズを考えたアイデアが高評価につながっているように感じる。

- ・ 英語に限定した国内宿泊プログラムであるイングリッシュキャンプについて、2年連続で0件となった理由を明らかにして、来年につなげられるとよい。
- ・ 高浜町にも大勢の外国の方が来られているので、「国際社会に対応するまちづくりの推進」は大切な取り組みだと思います。今年度こそはイングリッシュキャンプへの参加者があることを望みます。

4. 青少年の健全育成とスポーツの振興

ア. 自己点検評価が適当と思われるかどうか？ （ 適3名 、 否0名 ）

イ. 自由コメント

- ・ スポーツ協会委託事業（女子ソフトボール他6種目）について、大会数は以前と変わっていないところで、参加チーム数や人数等の推移を考える必要がある。大会のあり方を見直す時期に来ているのではないか。
- ・ 部活動の地域移行にあたり、過渡期にはいろいろな問題が起きると思うので、子ども達の負担にならないようにより対応をお願いしたい。

5. 郷土愛に満ちた文化創造の心を育てる文化振興

ア. 自己点検評価が適当と思われるかどうか？ （ 適3名 、 否0名 ）

イ. 自由コメント

- ・ 中学生のふるさと学習の研究発表を聞きに行かせてもらいました。私たち以上に郷土愛が感じられ、大変勉強になりました。今年度も参加したいです。

V 全体総括

高浜町教育委員会で実施する事業を、高浜町教育方針に基づき5つの項目に分類し、自己点検・評価を行い、その評価について外部の知見者の方に意見を伺いましたところどの項目に対しても概ね適当とのご意見を賜りました。今回の評価で得られた外部の知見と共に、この点検・評価結果を活かし、教育の諸課題解決に向け、常に問題意識を持ちながら新規事業・継続事業とも、その内容の強化と充実に努めていきます。

1. 社会の中で信頼と尊敬を得る人間性を育てる学校教育

町単講師や支援員、相談員などを配置し、児童生徒へきめ細かい対応ができていくことについて評価する意見がありました。また、相談員の配置に関して、年毎の相談件数や内容の変化についての記載を望む意見がありました。

また、学校図書館の貸出冊数の推移について検証を望む意見がありました。

今後も学力の向上や学習環境の整備、頂いたご意見をはじめとする各種の課題について、学校と連携し改善に努めていきます。

2. 人権意識を高め、明るい町づくりに貢献する豊かな心を育てる人権教育

児童生徒が、障がいを持つ方から直接お話を伺う機会を持つことについて、評価する意見がありました。

今後も引き続き、児童生徒だけでなく、教職員への同和教育・研修の推進も含め、様々な分野での人権教育を推進していきます。

3. 新しい時代を生きぬき、創造する知性と教養を育てる生涯学習の推進

前年度、図書選定やリクエストについてご意見を頂いた図書館について今年度はサービス向上を評価する意見を頂きました。

一方で、イングリッシュキャンプは2年連続で参加者が無かったため、事業内容の検証を求める意見がありました。

なお、イングリッシュキャンプについては、令和7年度より「海外留学事業」として見直しを行い、「国際社会に対応するまちづくりの推進」の目的を達成できるよ

うに努めていきます。

その他、公民館を含めた生涯学習活動全般についても、各地域のニーズを踏まえた活動を継続していきます。

4. 青少年の健全育成とスポーツの振興

スポーツ大会の数について、今後の参加チーム数や人数等の推移を踏まえて、各競技大会のあり方を見直すことについて意見がありました。

また、部活動の地域展開（地域移行）について、実施に際し子ども達の負担にならないよう希望する意見がありました。

今後も社会全体で人口減少が進む中、引き続き各団体との連携に努め、町民のスポーツ活動の推進を図れるよう取り組んでいきます。

5. 郷土愛に満ちた文化創造の心を育てる文化振興

特色ある学校づくり活動について、子どもたちのふるさと学習や成果発表を高く評価する意見がありました。今後も継続してふるさと学習を推進していきます。

高浜町教育委員会

〒919-2292

福井県大飯郡高浜町宮崎第86号23番地2

TEL 0770-72-7724

FAX 0770-72-2889

e-mail gakkou-edu@town.takahama.lg.jp